

第34回

日本観光研究学会全国大会 (名桜大学) シンポジウム

持続可能な観光のあり方を考える — 沖縄の取組みと課題から —

2015年9月に開催された「国連持続可能な開発サミット」において、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択された。このアジェンダはミレニアム開発目標の後継であり、17の目標と169のターゲット、そして232の指標からなる Sustainable Development Goals (SDGs: 持続可能な開発目標) を定めた行動計画である。また、国連世界観光機関 (UNWTO) は観光におけるSDGsを定め、観光の発展による経済成長や雇用創出、平和、紛争防止に加えて、適正な陸域および海洋資源の利用など、持続可能な観光の目標と理念を掲げている。

日本政府は現在、地方創生に向けたSDGsを推進しているが、一方で観光面ではオーバーツーリズムや観光による文化的、自然的インパクトの問題が指摘されている。沖縄県は政策目標において観光客数という量から消費額というある種の質への転換をはかり、エコツーリズムやヘルスツーリズムの推進、沖縄観光成果指標の導入や持続可能な観光リゾート地の形成戦略、さらには持続可能性指標 (STI) の導入に向けた先駆的取り組みなど、比較的早い時期から持続可能性を視野に入れた施策に取り組んできた。

そこで、本シンポジウムは持続可能な開発目標における観光をグローバルかつローカルの視点から捉え返し、観光インパクトの再考や沖縄の事例を通して、今後の日本における観光地のマネジメントに関する議論を深化させることを目的とする。

開催日 2019年(令和元年) **12月14日(土)** 14:00 ~ 17:30

※受付開始 13:15 予定

会場 名桜大学多目的ホール (大ホール 451 席)

入場 **入場無料 (一般参加も可)**

プログラム

1. 挨拶
2. 基調講演 沖縄県における観光と持続可能性
下地芳郎: (一財) 沖縄観光コンベンションビューロー会長
3. パネルディスカッション (登壇予定者)
 - ・寺崎竜雄: (公財) 日本交通公社理事・観光地域研究部長
 - ・二神真美: 名城大学教授
 - ・新垣裕治: 名桜大学教授
 - ・下村彰男: 東京大学大学院教授コーディネーター: 大谷健太郎: 名桜大学上級准教授